

5. 林産物の需給

(1) 木材の需給

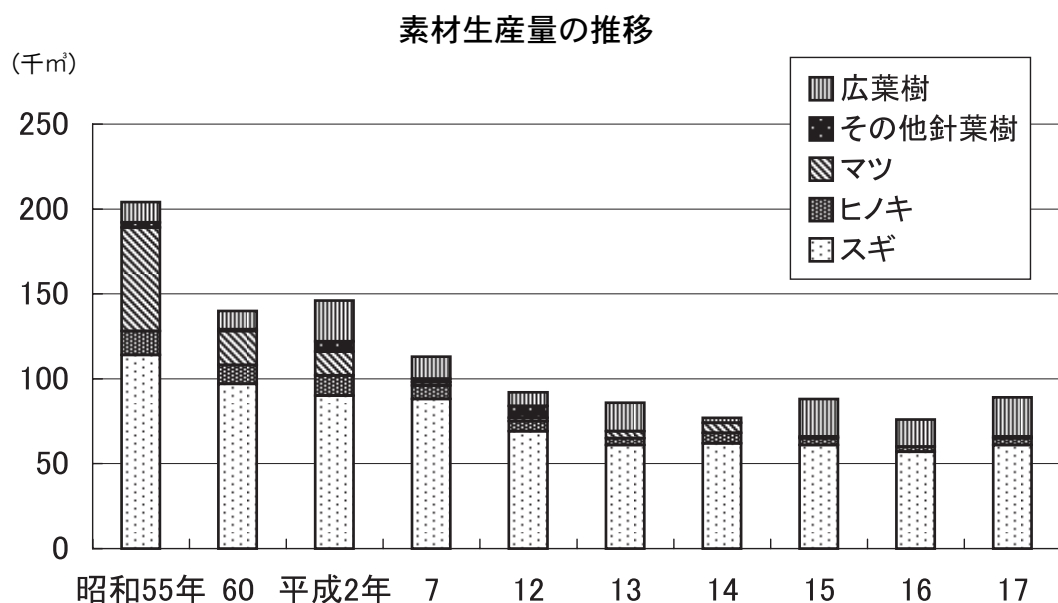
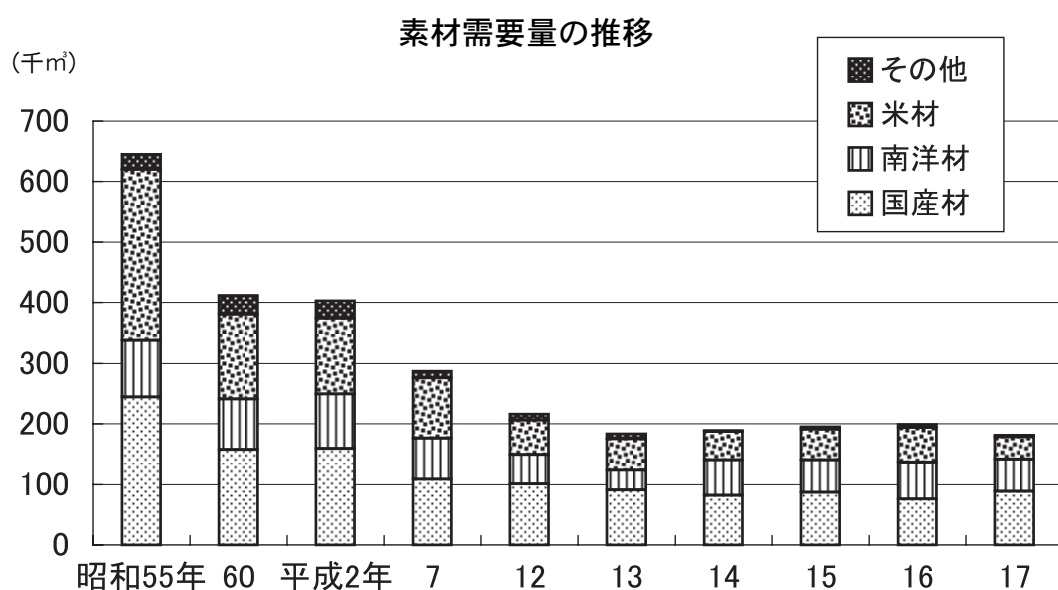
平成17年の素材需給量は前年より18千 m^3 減少し181千 m^3 であった。このうち国産材は89千 m^3 、外材は92千 m^3 であった。

外材のうち、40%は米材であり、57%は南洋材である。

県内素材生産量は、前年より13千 m^3 増加し89千 m^3 で、樹種別でスギ61千 m^3 、ヒノキ4千 m^3 、その他針葉樹1千 m^3 、広葉樹が23千 m^3 となっている。

県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林は前年より1千 m^3 増加し2千 m^3 、公有林は前年と同量で2千 m^3 、私有林は前年より12千 m^3 増加し、85千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は101千 m^3 、製材品生産量は66千 m^3 となっている。



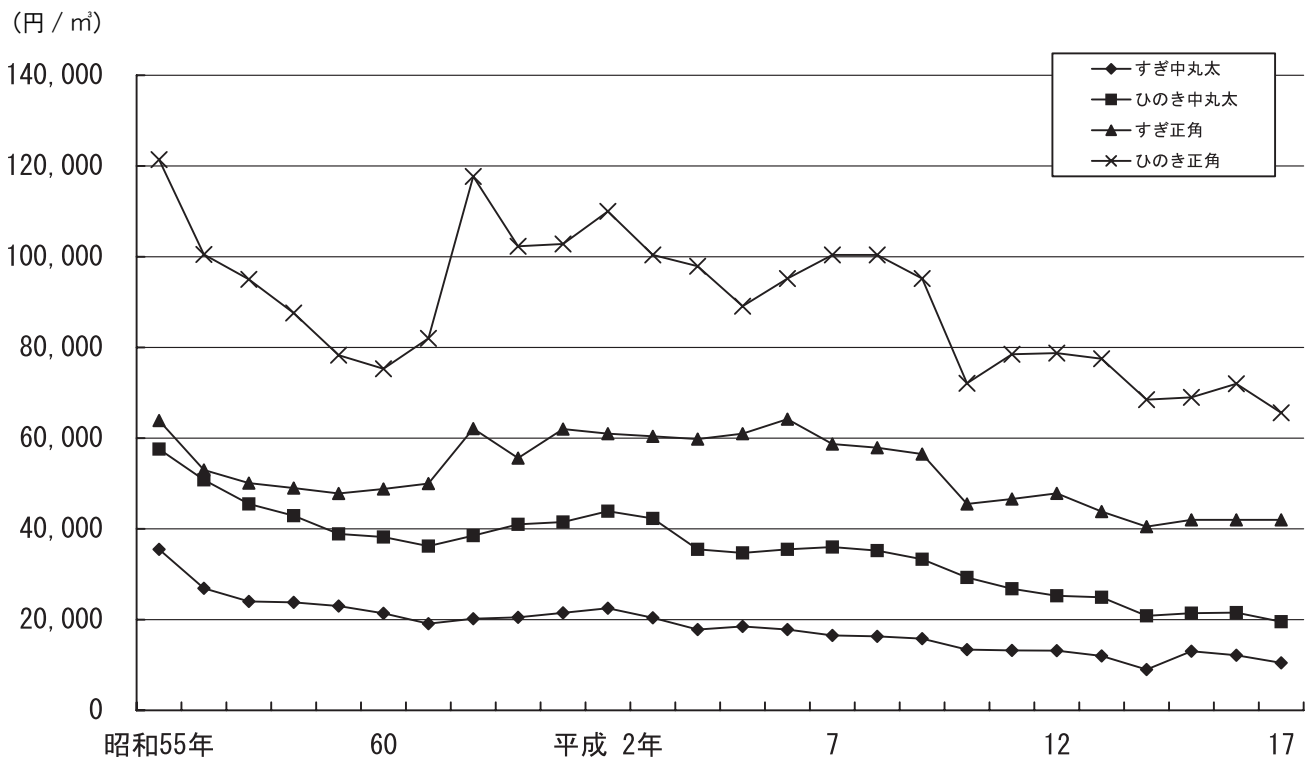
(2) 木材価格

昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が続き低下した。

平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

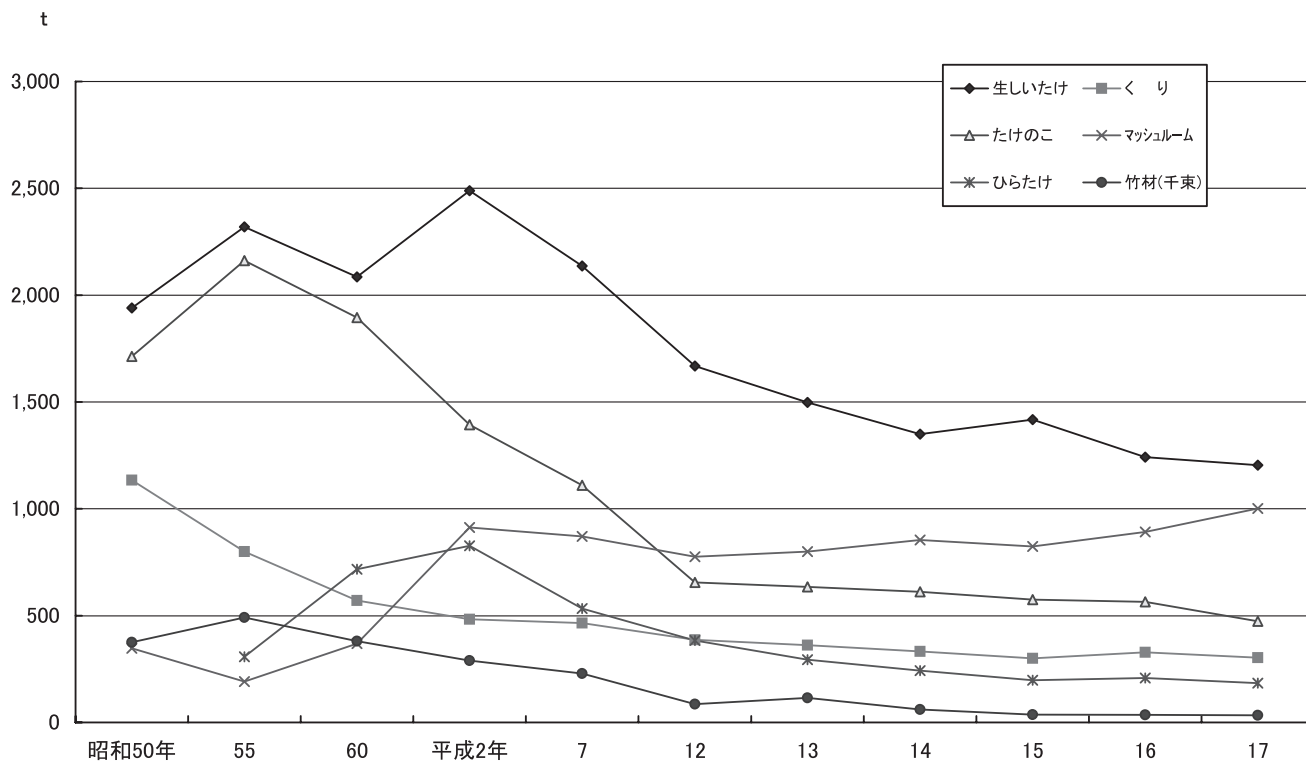
平成17年の素材の平均価格は、スギ中丸太が10,472円/m³で前年から1,667円、ヒノキ中丸太が19,542円/m³で前年から2,000円下落している。製材品は、スギ正角（10.5cm角、長さ3.0m）が42,000円/m³で前年と同額、ヒノキ正角（10.5cm角、長さ4.0m）が65,583円/m³で6,417円下落している。

木材価格の推移



(3) 特用林産物の需給

主要特用林産物生産量の推移



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産は、シイタケ・マッシュルーム・ヒラタケ等のきのこ類を中心に、タケノコ・ワラビ・ゼンマイ等の山菜類、クリ等の樹実類、竹材等の竹類、シキミ・サカキ等の特用樹等と多種にわたっている。

生産量を作物別に見ると、生シイタケは原木栽培から自家菌床栽培への切り替えが進んでいるところであるが、前年比3%減の1,204tの生産となった。地域別では千葉が353tと最も多く、次いで夷隅・長生・君津の順となっており、これらの地域は補助事業等を導入して産地化が図られている。

マッシュルームは海匝・香取地域において、対前年比12%増の1,000t生産されている。ヒラタケは、対前年比12%減の184tとなっている。

タケノコは生産者の減少、不作及び獣害により前年比16%減の473tの生産となった。地域別に見ると夷隅地域が最も多く301t、次いで長生・千葉の順となっている。特に、夷隅地域は早出しタケノコの産地として知られている。

樹実類ではクリが、対前年比8%減の303tとなった。

竹類では対前年比8%減の33千束となっている。